

総合計画・総合戦略策定にかかる 市の特性分析

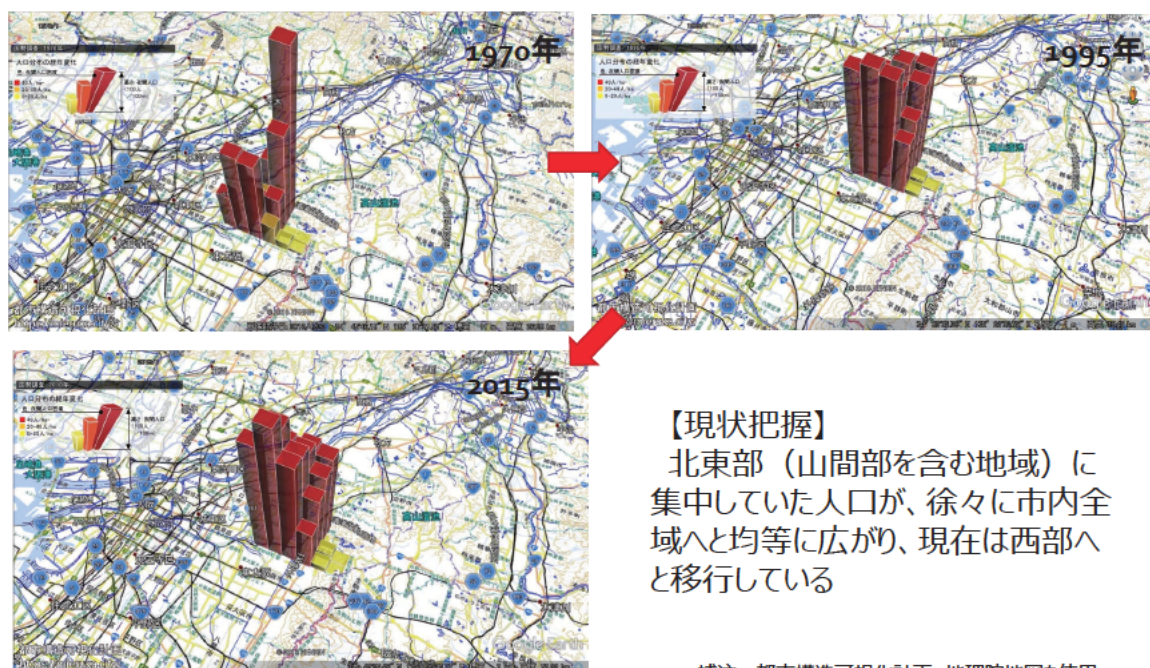
～庁内会議および審議会における活用～

大阪府 大東市 戦略企画室



1. 現状分析

1-1 人口動態



1. 現状分析

1-2 将来人口推計



i-都市交流会議2020

3

1. 現状分析

1-3 昼間人口



i-都市交流会議2020

4

2. 今後の社会展望

地域課題の多様化とITの進展

5G、IoT、AIなどのITの進展による、Society 5.0やスマートシティ、スーパーシティの実現

「想定される社会」

- ・自動運転による車の運行
- ・ロボットによる高齢者の見守り
- ・ドローンによる災害活動支援
- ・遠隔操作による医療 など



ITの進化によって、人口減少・少子高齢化、経済産業活動などの地域課題を解決する可能性

3. 庁内会議および審議会での議論

ブレインストーミング 《現状分析×今後の社会展望》

現状分析と今後の社会の動きを踏まえた上で、総合計画において、目標年次となる10年後の大東市がどうあるべきか、また、そのために何をすべきか、を考える



⇒データを可視化することによって、認識の共有がスムーズに図られ、画像から見える視点や課題等から、議論を行うことができた

4. まとめ

《現状分析より》

①北東部の人口が減少していることは、空家の増加を示唆するものであり、それは同時に住宅としての受け皿があることを意味することから、これらを良質な住宅ストックとして整備することで、定住人口の増加につなげられる可能性あり

（※北東部は山間部の急傾斜地を含む地域であり、人口減少と高齢化が顕著）

②今後、高齢者数の増加は緩やかになり、横ばいとなる傾向ではあるものの、一定数保持される

③夜間人口が少ない地域において、昼間人口が多い傾向。日中に人口が集中している市民体育館（市民）と大学等教育機関（学生）との間に交流が生まれれば、関係人口による新たな活性化が生まれる可能性あり



《今後の社会展望より》

①IT技術の進展により、交通課題や医療課題が解決され、山間部の急傾斜地という地理的弱点が克服される（弱点ではなくなる）可能性あり

②IT技術が進展するほど、情報弱者やコミュニティの希薄化に対する対策が必要

これらの要素を鑑みながら、大東の特性と将来動向を踏まえたまちづくりの在り方について、引き続き検討を行う

大阪府 大東市

都市の紹介

